

JFPF 国際人口問題議員懇談会

Japan Parliamentarians Federation for Population

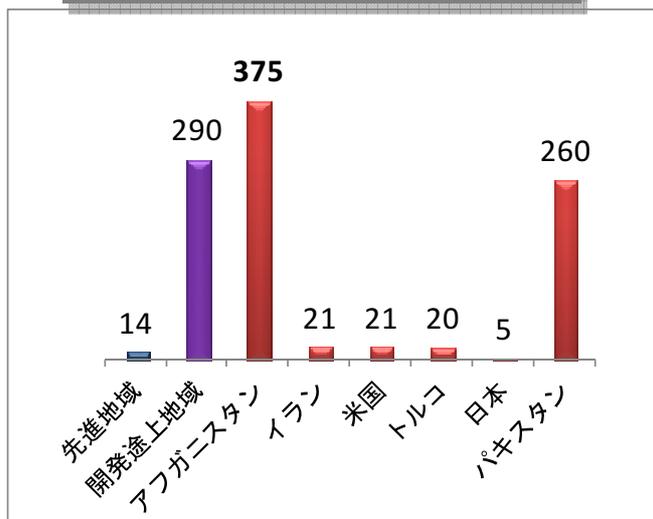
NEWS LETTER

No.3 August 2013

● ジェンダー平等における後退－アフガニスタン女性の地位

アフガニスタン国会下院(Wolesi Jirga)で今年7月、地方議会選挙で定数の25%を女性候補に割り当てるクオータ制を、20%へと削減する選挙法改正案が可決されました。クオータ制の導入は、女性や少女が依然として「二流市民(second-class citizens)」の地位に置かれ、男性支配的といわれるアフガニスタン社会において、女性の政治参画を促進することを目的としたものでした。12年前のタリバン政権からの解放後、社会参画や教育の分野で改善を見せてきた同国ですが、ジェンダーの平等、女性の地位向上等、人間の安全保障の面で再び過去の状況が強いられてきています。

アフガニスタンの妊産婦死亡率



アフガニスタンにおける結婚は、その60～80%が、家族、保護者、両親などが相手を決める強制結婚です。またアフガニスタン女性全体の46%以上が18歳になる前に結婚しています。そして女性全体の15%以上が15歳になる前に結婚し、15歳から19歳の女性の10%にすでに出産経験があるなど、児童婚や若年妊娠も大きな問題となっています。

またアフガニスタンの出生時平均余命は男女ともに49年(SWP 2012年)と、世界で2番目に低い数字となっています。人口は現在約2,900万人(2012年国連推計)ですが、女性1人あたり5人以上という世界200カ国の中でも特に高い合計特殊出生率(TFR)を背景に、

人口増加率が年2.03%と南・中央アジア地域で最も高くなっています。

リプロダクティブ・ヘルスの分野においては、妊産婦死亡率が出生10万件あたり375(グラフ参照)¹、乳幼児死亡率が出生1000人あたり149(日本は3)²と非常に高くなっています。特に女性の医療スタッフが不足しており、妊

産婦死亡の 26%が閉塞性分娩を原因とし、多くの母親が命を落としています。アフガニスタンでは、女性の医療スタッフがいない場合には、医師と話をすることができるのは夫だけで、妊産婦は診察を受けることもできないともいわれているのです。



今年1月にAPDAが主催したカンボジアの会議において、アフガニスタンのサフィ・カマル議員(写真)は、「私たちは古い慣習を重視する伝統的で、宗教色の極めて強い社会に暮らしており、こうした慣習によってさまざまな問題が引き起こされています。特に女性の安全が保証されていません。女性はリプロダクティブ・ヘルスや保健分野の十分なサービスを受けることができず、女性と一緒に行動したがる男性や夫も多くなります。これはある意味非常に残念な事実です。」と述べました。ジェンダー格差は、今でも国によってその状況に大きな隔たりがあります。ジェンダーの平等と女性のエンパワーメントのさらなる促進が求められています。



国際人口問題議員懇談会(JFPF)事務局
(公財) アジア・人口開発協会(APDA)

TEL: 03-5405-8846

FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

Website: <http://www.apda.jp>

国際人口問題議員懇談会(JFPF)への入会をご希望の方は、apda@apda.jp までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

次月号は 2013 年 9 月に配信いたします。

尚、本ニュースレターの配信停止をご希望の方は apda@apda.jp までお願いいたします。

¹ 参考:Trends in Maternal Mortality 1990 to 2010, Afghanistan Mortality Study AMS-2010, サフィ・カマル議員作成による

² World Health Statistics 2012